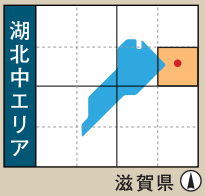
NO.095

名勝

県指定

総持寺庭園（そうじじていえん）

長浜市宮司町　昭和60年3月29日指定



総持寺は、近世初期の実務官僚として、また多方面に芸術的才能を発揮した、小堀遠州の生家にゆかりの寺です。作庭の時期は江戸時代初期と考えられ、遠州との直接的な関係は見いだせないものの、小堀氏ゆかりの寺の庭として、歴史上、芸術上ともに貴重な文化財です。

当時のできごと	
1432年	明との勘合貿易復活
1579年	小堀遠州生れる
1623年	家光3代将軍となる

総持寺と小堀氏

総持寺は、神照寺（長浜市新庄寺町）の実済が、荒廃していた薬師堂を中興し、永享5年(1433）に後花園天皇の勅願所として、総持院の号を賜ったことに始まります。この時、小堀家の先祖光道が施主となって堂塔の建立に尽力し、以後代々寺を支えていきます。

また、戦国大名の浅井氏も代々庇護を加えてきましたが、織田信長の兵火にかかり堂塔の大多数を焼失してしまいます。寛永元年（1624）に本堂、大門などが建立され、現在の寺観となりました。小堀遠州の生家は新介屋敷といい、総持寺のすぐ近くにあります。



総持寺本堂

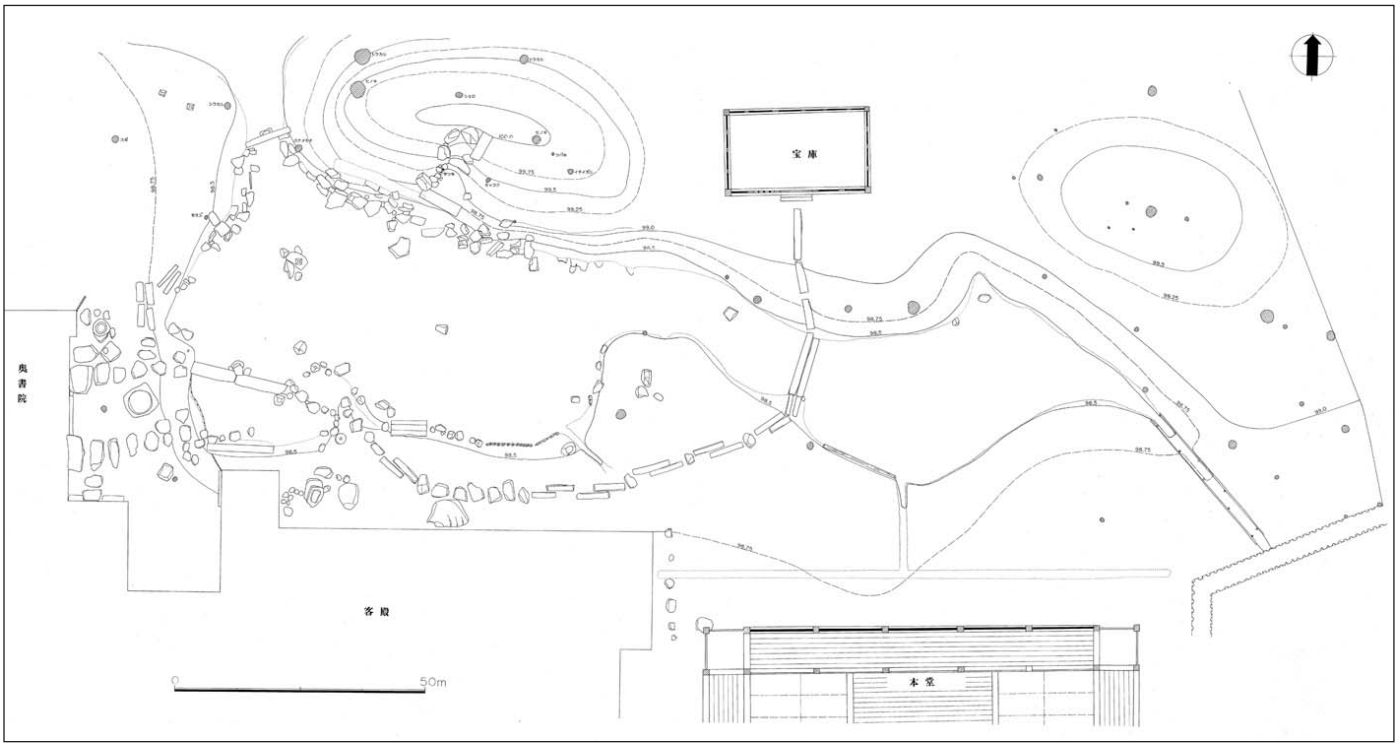


総持寺庭園

総持寺庭園の概要

庭は客殿の北に位置し、東側の本堂の裏まで延びています。中央に、東西に長く広い池を配し、池の北側を築山とします。築山のほぼ中央に大きな立石を配し、これを庭の要とし、ここに枯滝石組を配し、枯流れが池に注ぐところに石橋を架けます。この他にも、池の各所に、意匠を異にした石橋を架け、この庭のみどころの一つとなっています。また、池には五重層塔を建てた小さな岩島があります。

やや形式的な構成の庭ではありますが、数少ない江戸時代前期の庭として、また小堀氏ゆかりの寺の庭として、大切な文化財です。



総持寺庭園測量図



石橋から客殿を見る

関連する文化財

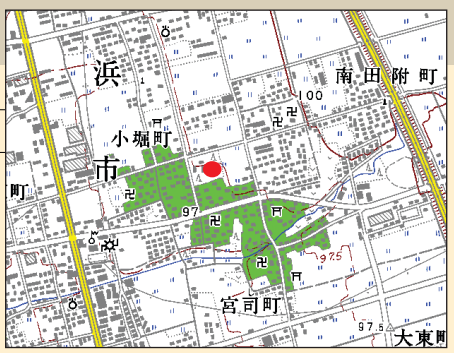
総持寺大門（県文）	室町時代の建築様式を残す。近年修復され、美観を取り戻した
絹本著色愛染明王像（重文）（総持寺）	鎌倉時代前期の作品で、鮮やかな色彩や載金がよく残っている
大通寺含山軒および蘭亭庭園（長浜市）	学習シートNo.080

もっと深く知りたい

長浜城歴史博物館	☎0749-63-4611　長浜市公園町10-10
長浜市教育委員会	☎0749-64-0395　長浜市小堀町32

総持寺庭園へのアクセス

JR北陸本線　長浜駅下車
北陸自動車道　長浜インター



【参考文献】〔滋賀県の庭園１～３〕滋賀県教育委員会

滋賀県教育委員会事務局文化財保護課　　平成16年3月